

## 水野瑞夫・田中俊弘・鈴木祥之\* 伊吹山のシダ植物\*\*

—岐阜県およびその近県の植物に関する研究 II<sup>1)</sup>

Mizuo MIZUNO, Toshihiro TANAKA and Shōji SUZUKI\*: Ferns growing in Mt. Ibuki  
—Studies on the plants in Gifu and adjacent prefecture II

伊吹山脈は滋賀県北東部と岐阜県西部の県境を南北に走る標高1000~1300mの山なみであり、その主峯は1377mである。伊吹山およびその周辺部は古生代二疊紀の地層であって石灰岩層と非石灰岩層からなり、とくに石灰岩層はひろく伊吹山石灰岩層とよばれている。石灰岩層は山頂からさらに北方に尾根筋を国見峠に達し、伊吹山の山腹および頂上附近には、いたるところに石灰岩特有のカレンフェルト地形がみられるのが特徴である。こうした地帯には<sup>2)</sup>イチョウシダ・クモノスシダ・イワツクバネウツギ・コゴメウツギ・ヒメフウロ・イブキシモチケ・キバナハタザオなどの好石灰岩植物の自生がみられる。伊吹山のシダ植物に関する資料は牧野<sup>3)</sup>・吉田<sup>4)</sup>らの報告をみるのみである。伊吹山の植物に関する研究資料<sup>2,3,4)</sup>のいずれにも伊吹山の地域を明示した記録に乏しい。筆者らは伊吹山のシダ植物を調査するに当たり、植物の調査対象地域となる伊吹山は伊吹山頂(1377m)を中心として、南限域は上野・弥高・上平寺・藤川・玉・小関などの地域、西限域は姉川と下板並から国見峠にいたる地域、北限域は国見峠より尾西・美東・白川・川合にいたる粕川支流を境とする地域、東限域は北限域の川合から粕川の1支流に沿って中山・古屋を通り小関にいたる地域とした。(Fig. 1)

**シダ植物概要** 伊吹山調査地域内に自生するシダ植物総数は99種(変種を含む)を確認している。

牧野<sup>3)</sup>は102種を記録しているが筆者らはそのうちトウゲシバ・スギラン・マンネンシギ・タチクラマゴケ・クラマゴケ・イワヒバ・イヌスギナ・イヌドクサ・ヒロハハナヤスリ・コハナヤスリ・コシダ・コウヤコケシノブ・ウチワゴケ・ホラシノブ・コウヤワラビ・ヒメカナワラビ・カタイノデ・カラクサイノデ・オニヤブソテツ・オシダ・イタチシダ・オオヒロハノイヌワラビ・ホウライイヌワラビ・イワヤシダ・トキワトラノオ・イワトラノオ・ヒメイワトラノオ・ヒトツバ・ヒトサジランなど29種を確認できなかった。吉田<sup>4)</sup>は62種を記録しているが、マンネンシギ・クラマゴケ・イワヒバ・ミズドクサ・イヌドク

\* 岐阜市三田洞 岐阜薬科大学 Gifu College of Pharmacy, Mitahora Gifu-City

\*\*本研究は岐阜県の植物調査第二次研究の一部として行ったもので、調査研究に下中科学助成金の一部を使用した。

- 1) 前報: 植物趣味 25 (3~4) 2 (1964)
- 2) 水野瑞夫: 岐阜県の植物 p.110 (1967)
- 3) 牧野富太郎: 伊吹山植物目録(滋賀県坂田郡教育会刊)(1940)
- 4) 吉田裕: 中部日本に於ける薬用植物の分布並びに利用栽培に関する研究(第一報)(1941)

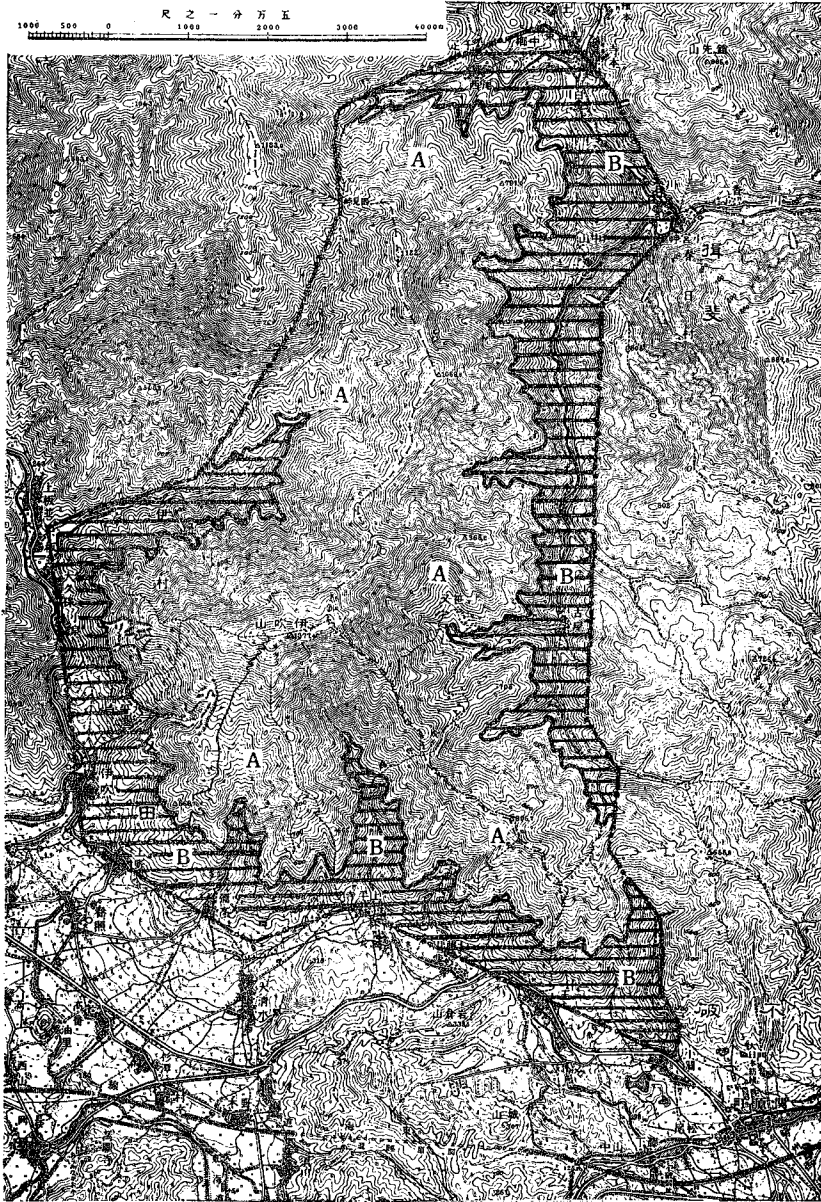


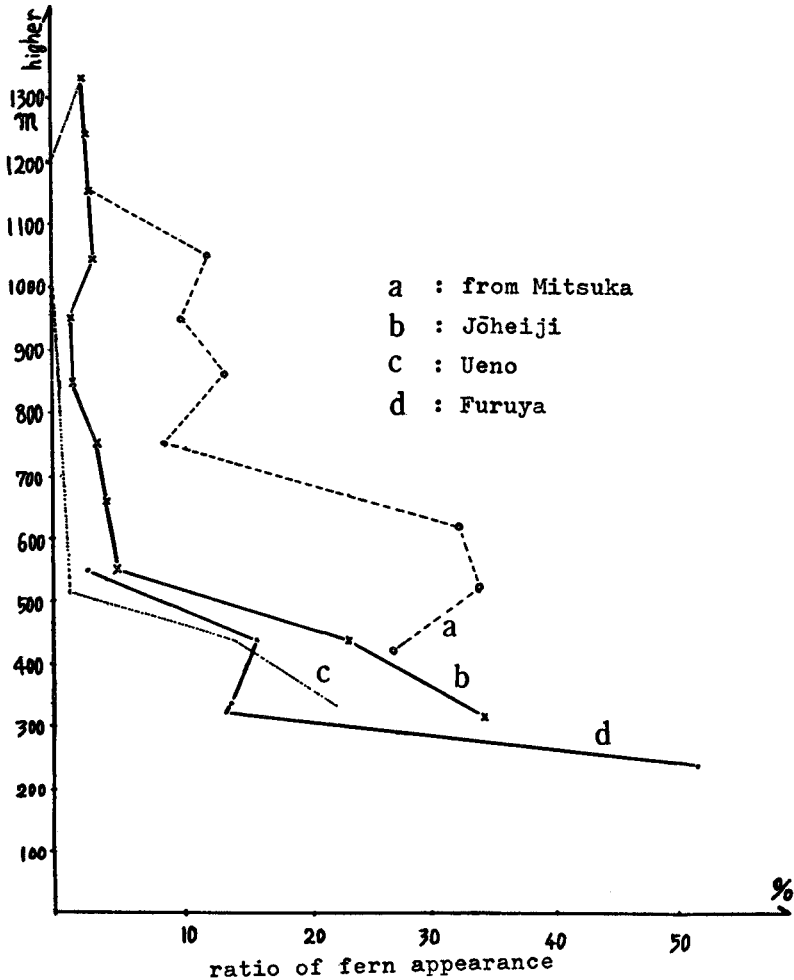
Fig. 1; Map of Mt. Ibuki

A : temperate fern growing region    B : warm temperate fern growing region



Fig. 2; The distribution of ferns according to the height.

$$\text{ratio of fern appearance} = \frac{\text{number of ferns}}{\text{total number of ferns}} \times 100$$



オオヒメワラビ・ミヤマノコギリシダ・シロヤマシダ・イチヨウシダ・マメズタ・ピロウドシダの20種を確認した。なお、伊吹山脈北部の国見岳ではビツチウヒカゲワラビの生育を確認することができた。

調査コースは美東(a), 上平寺(b), 上野(c), 古屋(d)の各々から頂上に至るコースにみられるシダについて、標高100mごとに出現するシダを調べた。(Table 1, Fig. 2) 美東

からのコース (Fig. 2 の a) では 700m, 上平寺・上野・古屋\*\*\* (Fig. 2 の b, c, d) からのコースでは 500m 以上ではシダ数が著しく減少する。

一方 800~900m 以上では新しく、ホソバトウゲシバ・ヒカゲノカズラ・ナツノハナワラビ・オウレンシダ・カラクサシダ・ツヤナシノデ・ナライシダ・ミヤマクマワラビ・ミヤマイタチシダ・テバコワラビ・シケチシダ・コバノヒノキシダ・クモノスシダ・コタニワタリ・ミヤマノキシノブが出現する。

このうちホソバトウゲシバ・ナツノハナワラビ・ヤマソテツ・ナライシダ・ミヤマクマワラビ・ミヤマイタチシダ・テバコワラビ・コタニワタリ・ミヤマノキシノブは温帯~亜高山帯に多く分布するシダである<sup>5)6)</sup>。美東からのコース (Fig. 2 の a) が 800~1100m で再び上昇しているのはこれら温帯性シダが出現するためである。上平寺からのコース (Fig. 2 の b) では 900m 以上においてこの現象がみられる。1300m 以上には亜高山帯にもその分布域の広がっている<sup>6)</sup> オウレンシダ・テバコワラビ・ミヤマノキシノブが分布する。

本地域は年降水量 2200~2800mm である。関が原 (120m) では年平均気温 14.3°C, 伊吹山頂では 6.2°C である<sup>2)</sup>。気温-標高を 1 次函数に近似させれば、標高 500m では 11.8°C となる。先に筆者らは岐阜県において、年平均気温 12°C をシダの分布量の指標とした<sup>7)</sup> が、伊吹山においてもこれとよく一致する。また、気象学上の暖帯ともよく一致する。

## 結 論

1. 伊吹山にはシダ植物 99 種を産する。
2. シダ植物のうち大部分 (84 種) は標高 500m 以下に分布し、標高の上昇とともに種類数が減少する。
3. 800m 以上においては、標高 500m 以下には見られなかったシダ 15 種が分布し、その内 9 種はその分布域を温帯~亜高山帯に有する種類である。
4. 1300m 以上には分布域が亜高山にも広がっているシダ 3 種を産する。
5. 年平均気温 12°C 以上の地域とシダを多産する地域 (標高 500m 以下) とはよく一致する。

## Summary

Mt. Ibuki was attacked by four courses (from Mitsuka, Joheiji, Ueno and Furuya).

1. 99 species of ferns are growing there.
2. Fern growing area are divided into two regions, i. e. warm temperate and temperate. In the former more species of ferns are growing than in the latter.

5) 田川基二：原色日本羊歯植物図鑑 (1964)

6) 杉本順一：日本草本植物総検索誌 シダ篇 (1966)

7) 水野瑞夫・田中俊弘・鈴木祥之：岐阜薬科大学紀要, 投稿

\*\*\* 古屋からのコース (Fig. 2 の d) は標高約 800m で上平寺からのコース (Fig. 2 の b) に合する。